

本科 3 期 1 月度

解答

Z 会東大進学教室

高 1 難関大英語 S

高 1 難関大英語



## 27 章 名詞

---

### 要点

#### ■ 確認問題 1

**解答** .....

- (1) 私は買い物に行く時，袋を持っていく。
- (2) 私はかつて買い物に行く時，袋を持っていった。
- (3) レシートは袋の中に入れますか。

#### ■ 確認問題 2

**解答** .....

- (1) much luggage
- (2) srart
- (3) a people ; start

#### ■ 確認問題 3

**解答** .....

- (1) pieces
- (2) glasses
- (3) sheet
- (4) papers

#### ■ 確認問題 4

**解答** .....

- (1) information
- (2) room
- (3) four rooms

#### ■ 確認問題 5

**解答** .....

- (1) the を取る。
- (2) … go to the University of Tokyo と the を入れる。

#### ■ 確認問題 6

**解答** .....

- (1) is

- (2) good
- (3) goods

■ 確認問題 7

**解答**

- (1) 数分歩けば、そのビルが右手に見えるでしょう。
- (2) ジムが本を愛する気持ちが、彼に私設図書館を作らせた。〔ジムは本を愛していたので私設図書館を作った。〕

## 問題

### 【1】

#### 解答

- |                             |                               |
|-----------------------------|-------------------------------|
| (1) a can of jam            | (2) a bottle of marmalade     |
| (3) a bucketful of water    | (4) a piece of red chalk      |
| (5) a slice of ham          | (6) a spoonful of sugar       |
| (7) a glass of orange juice | (8) a cup of tea              |
| (9) a dish of salad         | (10) a sheet [piece] of paper |

#### 解説

不可算名詞を特定数量として表す場合、piece, sheet などの助けを借りなければならない。例えば、「チョーク 1 本」は a piece of chalk, 「チョーク 2 本」は two pieces of chalk となる。wine の場合には、piece ではなく、glass, bottle などを用いなければならない。このように、不可算名詞によって伴う表現が異なるので、1 つ 1 つ学習するしかない。

### 【2】

#### 解答・解説

- (1) flowers (私は花が好きだ。)[種類全体について、漠然と「～が好きだ」という場合は無冠詞複数形を用いるのが一般的。]
- (2) are (私の家族は皆早起きです。)[family は可算の集合名詞。集合体の構成員のそれぞれを表す場合は、単数形でも複数扱いになる。]
- (3) is (私の家族はあなたの家族より小さい。)[集合体をひとまとめに考える場合は、単数扱い。]
- (4) families (この小さな家に 3 家族が住んでいる。)[同種の集合体がいくつかある場合は複数形になる。]
- (5) is little furniture (私の部屋にはほとんど家具がない。)[furniture は不可算の集合名詞で複数形にならない。単数扱い。]
- (6) are (警察はその事故の原因を調べている。)[police は常に単数形で複数扱いの集合名詞。]
- (7) fruit (これらの木にはたくさん果物が実りますか。)[単に「果物」の意味の時は不可算の集合名詞で単数扱い。]
- (8) fruits (あの店ではさまざまな果物が売られている。)[「種類」の意味の時は可算名詞として複数形もとる。]
- (9) a hair (スープの中に髪の毛が 1 本入っていた。)[「(1 本の) 髪の毛」の意味の時は可算名詞として扱う。]
- (10) dollars (彼はその時 2, 3 ドル持っていた。)[a few は可算名詞を修飾するので money (不可算名詞) は不可。]

- (11) was (そのビンの中にはたくさんの水があった。)[water は不可算名詞〔物質名詞〕で単数扱い。]
- (12) an excellent wine (これは上質なワインだ。)[物質名詞(wine)が「種類」を表し、形容詞で修飾される場合は可算の普通名詞として扱う。]
- (13) information (私はその本からたくさんの役立つ情報〔知識〕を得た。)[information は不可算名詞〔抽象名詞〕で複数形にならない。]

### 【3】

#### 解答・解説

- (1) (a) その委員会は10人で構成されている。[committee は可算の集合名詞で、集合体をひとまとめに考える場合は単数扱い。]  
○ consist of ~「~から成り立つ」
- (b) その委員会の委員は意見が分かれている。[集合体の構成員のそれぞれを表す場合は単数形でも複数扱い。]  
○ divide ~「~を分裂させる」
- (2) (a) たくさんの人々が出席していた。[people は単数形の複数扱いで「人々」の意味を表す。]
- (b) 第2次世界大戦後、アジアとアフリカの多くの民族が独立を勝ち得た。[peoples ; a people は「国民、民族」の意味を表す。]
- (3) (a) 美は好みの問題である。  
○ beauty「美」[抽象名詞〔不可算名詞〕。]
- (b) 彼女は若い頃美人だった。  
○ a beauty「美人、美しいもの」[抽象名詞の普通〔可算〕名詞化。]
- (4) (a) そのテーブルは木製である。  
○ wood「木材」[物質名詞〔不可算名詞〕。]
- (b) 彼らは森でキャンプをした。  
○ a wood「森」[抽象名詞の普通〔可算〕名詞化。]
- (5) (a) 私はやらなければならない仕事〔勉強〕がたくさんある。  
○ work「仕事、勉強」[抽象名詞〔不可算名詞〕。]
- (b) 私はシェークスピア全(作品)集を持っている。  
○ works「作品、著作」[抽象名詞の普通〔可算〕名詞化。]  
○ by : 行為者を表す。

### 【4】

#### 解答・解説

- (1) glasses (母は読む時に眼鏡をかける。)  
○ glasses「眼鏡」[常に複数形で用いられる名詞。]
- (2) is (物理学は我々の大好きな学科である。)  
○ physics「物理学」[不可算名詞。単数扱い。]

- (3) makes (よい知らせは人々を幸福にする。)  
○ news 「ニュース, 知らせ」〔不可算名詞。単数扱い。〕
- (4) manners (口を一杯にしたままでしゃべるのは無作法である。)  
○ manners (manner の複数形) 「① 行儀・作法 ② 風習・習慣」  
○ manner 「① 方法 ② 態度」
- (5) trains (上野駅で乗り換えなさい。)  
○ change trains 「列車を乗り換える」〔名詞の複数形を用いる表現。change は「同種のものを交換する」という意味では目的語は複数形をとる。〕
- (6) friends (私はその町の高校生と友達になった。)  
○ make friends with ~ 「~と友達になる」〔名詞の複数形を用いる表現。〕
- (7) ten years' (メアリーおばさんは10年ぶりに帰郷した。)[-s で終わる複数名詞には -s の後に ' だけをつける。]  
○ after ~ years' absence 「~年ぶりに」
- (8) son-in-law's (あれはトムの義理の息子〔娘の夫〕の家です。)[son-in-law (義理の息子) のように複合名詞の所有格は最後の語に -s をつける。]
- (9) brother's (このセーターは私の弟のセーターです。)[brother's の後に sweater が省略されている (独立所有格。名詞の反復を避ける)。]
- (10) some friends of John's (昨日私はジョンの数人の友達に会った。)[所有格は some と同種の限定辞であり, 並べて名詞の前に置くことはできないので「of + 所有格」の形で名詞の後に置く。]

## 【5】

### 解答

- (1) Do you have a nephew or a niece? [Do you have any nephews or nieces?]
- (2) My parents were glad to hear of my success.
- (3) The dog saw a cat and ran after it.
- (4) Much clothing is needed in winter. [We need much clothing in winter.]
- (5) Would you change places [seats] with me?

### 解説

- (3) it は前に出た名詞 (「a + 名詞」, 「the + 名詞」) の代わりに用いられる。
- (4) clothing は不可算名詞であるので, many ではなく much を用いなければならない。季節名も不可算名詞であり, 「いつの冬であるか」を特定はしていないので, in winter とする。
- (5) 相互に物を交換したり, 友人関係にあったりすることを示すのに用いられる複数を「相互複数」という。例えば, 「私は彼と親しくしている。」は I am friends with him. であって, × I am a friend with him. とはならない。

## 【6】

### 解答

- (1) He enjoyed the film to his heart's content.
- (2) We were satisfied with this book of Mike's.
- (3) (A) Ten minutes' walk will bring you to the park.
- (4) Everyone waited for his arrival.
- (5) He went out in the absence of his teacher.

### 解説

名詞所有格をいかに使うかが問われている問題。

- (1) ○ to *one's* content 「～の心ゆくまで」
- (2) this book of Mike's は this Mike's book としない。所有格は a, the, some, any, no, this, that などと並べて名詞の前に置くことはできないので、「of + 所有格」を名詞の後に置くことに注意する。  
○ be satisfied with ～ 「～に満足する」
- (3) Ten minutes' walk が the park に連れて行くと考える。「歩行距離」という意の名詞 walk が「10分間の」という形容詞で修飾されていると考える時は、不定冠詞 a がつくこともある。
- (4) ○ arrival 「到着」 < arrive *vi.* 「到着する」の名詞形。
- (5) ○ in the absence of ～ 「～がいないので」

## 【7】

### 解答

- (1) あらゆる手段を使って、彼に考えを変えさせようとした。
- (2) まだ試していない方法が1つある。
- (3) 淡水にしか住めない魚もいる。
- (4) ハチミツはほとんどないが、砂糖は少しある。
- (5) ニューヨークには友達はほとんどいないが、ロンドンには数人いる。

### 解説

- (1), (2) 「手段・方法」という意味の means は単複同形である。他に、単複同形の名詞には、species がある。

Ex. This *species* of tulip is very rare. (この品種のチューリップは、非常に珍しい。)

There are thousands of *species* of butterflies in the world.

(世界には、何千種類もの蝶がいる。)

また、(2) の be still to do は「まだ…していない」の意。

Ex. The problem is *still to* be solved. (その問題は未解決だ。)

- (3) ここでは、「すべての魚の中で、淡水に住む魚の種類が some である」という意味である。このように「魚の種類」を言う場合は、複数形に fishes を用いる。
- (4) honey, sugar とともに不可算名詞である。a little, little は不可算名詞にのみつけて用いることができる。a little は、none の反対の概念であり「(量が) 少しある」の意味で

ある。一方, little は much の反対の概念であり, 「(量が) ほとんどない」の意味になる。  
(5) a few, few は, 可算名詞にのみつけて用いることができる。a few は none の反対の概念であり, 「(数が) 少しある」の意味である。一方, few は many の反対の概念であり, 「(数が) ほとんどない」の意味になる。

## 【8】

### 解答

- (1) makeup [make-up]      (2) shopping  
(3) personal computer      (4) ウ  
(5) 「全訳」下線部(5)参照。      (6) used to  
(7) イ      (8) book months in advance

### 解説

- (1) make up は動詞句。「化粧をする」の他に, 「～を構成する, ～を埋め合わせる, ～を作り上げる」などの意味がある。  
(2) 「買い物をする」は shop, 「買い物をしている」は be shopping である。したがって, 空所には shopping が入る。

「買い物に行く」は go shopping である。これ以外の go …ing には,

go fishing 「釣りに行く」

go camping 「キャンプに行く」

go swimming 「泳ぎに行く」

go skiing 「スキーに行く」

go skating 「スケートに行く」

go dancing 「踊りに行く」

go riding 「乗馬に行く」

などがある。

- (3) 「パソコン」は personal computer という。  
(4) platform を形容詞として用いた場合, 「(靴が) 厚底の, (底が) 厚手の」という意味になる。platform には名詞としての働きもあり, 「(駅の) プラットホーム, 教壇, 演壇」の意味になる。「(駅の) ホーム」は form でも home でもないのである。

Ex. The train now standing at platform 5 is for Atsugi.

(ただいま 5 番線に停車中の電車は厚木行きです。)

- (5) 主語の it は your new hairstyle のこと。go with ～は「～と調和する, よく似合う」, gold は「金の, 金製の」が主な意味。「金色の」ではない。「金色の」は golden を用いる。  
(6) 空所の直後に状態動詞の be がある。したがって, 過去の状態を表す used to を用いる。  
(7) 「～を染める, ～に色をつける」は dye ～。過去形, 過去分詞とも dyed である。‘have + O + 過去分詞’で「Oを…してもらう」の意味を表す。  
(8) book は「～(＝部屋・座席・切符など)を予約する」という意味で, 自動詞としても他動詞としても用いることができる。in advance は「前もって, あらかじめ」という意味。「1週間前に」は a week in advance, 「1カ月前に」は a month in advance, 「数

カ月前」は months in advance である。したがって、book months in advance となる。

全訳

渋谷の通りで、アキラが友人のタカコにばったり出くわす。

タカコ：ねえ、アキラ。

アキラ：えっ？〔やっとタカコだとわかった〕ああ、タカコか！ そんな茶色の化粧をしてるからわからなかったよ。

タカコ：買い物？

アキラ：うん。パソコンを探していたんだ。タカコは？

タカコ：ABCデパートに行ってたの。ねえねえ、この赤い厚底靴を買ったのよ。どう？

アキラ：いいじゃない。背が高く見えるよ。それよりも、ちょっとテレビのスターに似てるね。名前何だったっけ？ でも、似てないところもあるけど…。

タカコ：新しい髪型がでしょ？ この髪型、どう思う？

アキラ：そうだね、(5)その大きな金のイヤリングにぴったりだよ。でもさ、髪はずいぶん変わったよね。だって、前は黒かったのに、今は白いんだもん。

タカコ：そうなの。今朝、原宿の美容師にブロンドに染めてもらったの。カリスマ美容師だから、何カ月も前に予約しなければいけなかったんだから。

アキラ：そうだね、すごくいいんじゃない。お茶でも飲みに行こうか？

タカコ：そうしましょう。まだ怖くて家に帰れないの。この格好を見たら、うちのお母さん、すごく怒ると思うから。

## 添削課題

### 【1】

#### 解答・解説

- (1) (a) そのタバコに関税を払わなければならないのですか。  
(b) 毎週土曜日に散歩に出かけるのが私の習慣です。
- (2) (a) 英語のアルファベットの 26 文字を知っていますか。〔letters は letter (文字) の複数形〕  
(b) 彼は文学者である。
- (3) (a) ジャクソン家は来週アメリカ横断をする予定です。  
(b) ジャクソンは中学校で英語を教えている。
- (4) (a) 彼は漱石についての研究家である。〔目的格関係〕  
(b) 彼は漱石が教えた学生だった。〔主格・所属関係 (二重所有格)〕

### 【2】

#### 解答

- (1) 私たちは彼とその農場を買うことで合意した。
- (2) こんなひどい場所には2度と来るつもりはない。
- (3) 好奇心は知識のもとである。
- (4) 彼の父親は彼に莫大な財産を残した。

## 28 章 代名詞

### 要点

#### ■ 確認問題 1

##### 解答

- (1) 「天候」を表す場合、普通 it を主語にする。(正) It is very cool today.
- (2) 強調構文は It is ~ that ... の形を用いる。(正) It was my aunt that looked after my cat while I was in Hawaii.
- (3) 二重所有格は「some + 名詞 + of + 所有代名詞」の形を用いる。(正) Minako is going to take a day trip with some friends of hers next weekend.

#### ■ 確認問題 2

##### 解答

- (1) 食べ物
- (2) 彼が試験に受かること
- (3) お金を返してくれそうな人

#### ■ 確認問題 3

##### 解答

- (1) 住めば都。
- (2) れんが造りの家は木造のものよりも長持ちする。
- (3) 子供たちがたくさんいたが、今は一人もいない。
- (4) 彼女の仕事は何も終わっていない。

#### ■ 確認問題 4

##### 解答

- ① one      ② the others      ③ the others [others]

#### ■ 確認問題 5

##### 解答

- (1) some ; any
- (2) Any

■ 確認問題 6

解答

- (1) あなたは本を数冊買ってくればよい。
- (2) 6グループそれぞれが独自の役割がある。
- (3) ここにいる男の子には皆ガールフレンドがいる。

■ 確認問題 7

解答

- (1) neither → either
- (2) either → one
- (3) ○

■ 確認問題 8

解答

- (1) 誰か中立的な人が議長になるべきだ,
- (2) 私は人生で何かを成し遂げたい。
- (3) 仕事は彼のすべてだ。

## 問題

### 【1】

#### 解答・解説

- (1) 彼女がいらいらするのはこの暑い気候のせいである。← 彼女をいらいらさせるのはこの暑い気候である。〔強調構文の it (This hot weather makes her irritable. の主語を強調)〕
- irritable 「怒りっぽい、いらいらする」 < irritate
- (2) 君は暗くなる前に帰宅しなければならない。〔明暗を表す非人称の it。〕
- (3) 彼は正直者だと信じられていた。〔that 以下を指す形式主語の it。〕
- (4) その議長を支持するのが私の義務だと思った。〔to support the chair を指す形式目的語の it。〕
- (5) 君が誰であろうと、どこに住んでいようと問題ではない。〔who you are or where you live を指す形式主語の it。〕
- (6) たまたま私たちは同じ列車に乗った。
- it happens that ～ 「たまたま〔偶然に〕～」〔非人称の it。〕

### 【2】

#### 解答・解説

- (1) そこに立っていた人々は皆大学生だった。〔those が「人々」を表す（形容詞（句・節）を伴う）。〕
- (2) 健康は富よりも大切である。というのは、後者〔富〕は前者〔健康〕ほど我々に幸福を与えはしないからである。
- this —— that : 「後者」 —— 「前者」〔this は近いものを指すのでこの場合 wealth を指し, that は遠いものを指すので health を指す（相関用法）。〕
- (3) その母親は自分の赤ん坊をあちこちの医者に連れて行った。
- this A and that 「あちこちの A」〔相関用法〕
- (4) ジョンはキャプテンであるので、そういう人として扱われるべきである。
- as such 「そういうものとして」
- (5) (a) 「僕は遅刻しているのではないかと思う。」「僕もそうだ。」
- 肯定文 + So V S 「S もまた～だ」〔S V が倒置される。〕
- (b) 「僕は遅刻しているのではないかと思う。」「その通りだ。」
- 肯定文 + So S V 「S はその通りだ」〔So = Yes。〕
- (6) 彼よりも自分が悪い。
- blame ～ (for …) 「～を（…で）責める」〔主語が I なので、自分自身を目的語にとる場合は再帰代名詞 myself を用いる。〕
- (7) 知識それ自体はほとんど価値がない。
- in oneself 「それ自体では、本来は」〔普通 in itself ; in themselves の形で用いられる。〕 cf. for oneself (独力で；自分のために)

### 【3】

#### 解答・解説

- (1) that (この国の気候はアラスカの気候より穏やかである。)  
○ that = the climate [単数の既存の名詞を指す。]
- (2) those (私は科学に関する本より文学に関する本の方が好きだ。)  
○ those = books [複数の既存の名詞を指す。]
- (3) Those (このゲームに参加したい人は参加できる。)  
○ those who ~ 「～する人々」
- (4) that (私はやるべきことをやった。)  
○ that which = what
- (5) such (我々はたくさんのオレンジやレモン, グレープフルーツなどを輸入している。)  
○ ~ and such 「～など」 (= and so on [forth])
- (6) such (非常に暗かったので私は何も見えなかった。 ← その暗さは私が何も見えないほどのものだった。)  
○ such that ~ 「① 非常にひどい [よい] ものなので ~ ② ~ のようなもの」
- (7) same (彼女が金持ちであろうとなかろうと私にはどうでもよいことだ。)  
○ be all the same to ~ 「～にとってどうでもよいことである」 [same は「同じこと」の意味で普通 the をつけて用いる。]

### 【4】

#### 解答

- (1) It is they that have sharp minds.
- (2) It was when he was running that he broke his leg.

#### 解説

強調構文の型をしっかりと覚えておくこと。

### 【5】

#### 解答

- (1) It seems that he is sick [ill]. [He seems to be sick.]
- (2) Please help yourself.

### 【6】

#### 解答

- (1) the story      (2) 「全訳」参照。

#### 解説

- (1) 同一名詞の反復を避けるための that (of ~) である。

(2)

- One of the first stories you come across when you open your Bible is that of the Tower of Babel. : the first stories を先行詞とする関係詞節は, you come across when you open your Bible で, 関係代名詞 that が省略されている。
- Men, say the Bible, had grown very proud — to the point of believing they were as mighty as God. : they は Men を指している。say the Bible は挿入されている。
- So they decided to build a great tower that would reach the sky, as a token of their might and as an act of defiance to God. : a great tower を先行詞とする関係詞節が that would reach the sky である。reach が他動詞であることに注意。

**全訳**

聖書を開いて最初に目にする物語の1つは、バベルの塔の物語である。聖書によると、人間は非常に傲慢になってしまい、自らが神と同等の力があると信じるに至った。それで人間は自らの力のしるしとして、そして神に対する挑戦の行為として、空に届くほどの大きな塔を築き上げようと決心したのである。

**注**

- ℓ. 1 ○ come across ~ 「～に出会う, ～に出くわす」  
○ the Tower of Babel 「バベルの塔」
- ℓ. 2 ○ the Bible 「聖書」: 「旧約聖書」は The Old Testament, 「新約聖書」は The New Testament.  
○ to the point of ~ 「～までに, ～のところまで」
- ℓ. 3 ○ mighty 「力強い, 強力な」  
○ decide to do 「…しようと決心する」

**【7】**

**解答・解説**

- (1) his, himself (皆自分で〔独力で〕自分の仕事をしなければならない。)[everyone (ここでは主語) は he の人称で受ける。]
- (2) one (私は車が欲しいが、買う余裕がない。)  
○ one = a car 「不特定なものを表す。」  
○ cannot afford ~ 「～の余裕がない」
- (3) it (これはあなたの車ですか。いつ買ったの?)  
○ it = the car 「特定のものを表す。」
- (4) some (砂糖が必要なら、あげましょう。)[不可算名詞 (sugar) は one で受けることはできないので some などを用いる。]
- (5) None (鉛筆はどれも残っていない。)[no one は人にだけ用い、常に単数扱い。]
- (6) the other (私たちはその猫が毎朝道路を横切ってこちら側からあちら側へ行くのがわかった。)[側は2つに限定されるので、「あちら側」は the other (side) となる。]
- (7) another (知っていることと教えることは全く別のことである。)  
○ A is one thing and B is another (thing). 「AとBは全く別のものである。」

- (8) one, another, the other (私には3人兄弟がおり、1人は東京に、もう1人はシカゴに、残り(の1人)はロンドンにいる。)[「1人が～、もう1人は…」の場合「(3人の中の)1人…また別の1人」で one … another を用い、3人目は残りの1人に限定されるので *the other* になる。]
- (9) the others (ここに4つのスーツケースがあるが、私は2つしか運ぶことができない。残り(の2つ)を運んで下さい。)[限定された残りが複数の場合は *the others* になる。]
- (10) others (リングが好きな人もいれば、オレンジが好きな人もいる。)  
○ some ～ others … 「～する人もあれば…する人もある」[others と oranges の間に like が省略されている。]
- (11) others (子供たちは他人との付き合い方を教わらなければならない。)  
○ others [無冠詞で単独に用いられる場合「他人」を意味する。]  
○ get along with ～ 「～と仲良くやっていく、～とうまくやっていく」
- (12) each other (ブラウンとフォードは時々お互いを(家に)招いているらしい。)  
○ each other 「お互いに」(≡ one another)  
○ one after another 「次々と、代わる代わる」
- (13) some, any (彼女は私にいくら氷を求めたが、私は全く見つけ出せなかった。)[「いくらか」を表す場合、ice は不可算名詞なので肯定文では some を用いる。several は可算名詞を修飾する。]  
○ not ～ any = no
- (14) some (どこかおいしいレストランでお昼を食べませんか。)  
○ some + 単数普通名詞「ある～」  
○ What do you say to …ing? 「…するのはいかがですか」[勧誘]
- (15) All (その本は皆新しい。)[are と複数形で受けているので all になる。each, every とともに単数扱い (every は形容詞用法のみで代名詞用法はない。)]
- (16) is (その牛乳は全部新鮮だ。)[「量・全体」を表す場合は単数扱い。]
- (17) either (両岸に並木がある。)[形容詞用法の either は「どちらも」の意味を表すことがあり、単数扱い (on either side = on both sides)。]  
○ bank「銀行；土手、岸」
- (18) Either (あなたはこれら2冊の本のどちらかを面白いと思うでしょう。)[2つのものに関しては either を用いる。]

## 【8】

### 解答

(1) ア × イ ○ ウ × エ ○

(2) (1) イ (2) ア (3) ウ (4) ウ

(3) 「全訳」下線部参照。

### 全訳

ミシシッピ川は、アメリカ合衆国最長の川である。全長は、3700 キロを越える。

ミシシッピ川の水源は小川で、メキシコ湾では幅がおおよそ2キロである。水深がとても深いところもあれば、浅いところもある。

雨、雪、あられ、氷の水でミシシッピ川はできている。多くの小さな川が、ミシシッピ川に注ぎ込んでいる。アメリカ合衆国内に降る雨の半分が、この川に流れ込む。

メキシコ湾からミシシッピ川を船で1600キロのぼることができる。貨物船の場合が多い。貨物船はさまざまな荷物を載せて、川を上ったり下ったりする。

### 注

ℓ. 1 ○ The Mississippi River 「ミシシッピ川」

ℓ. 3 ○ creek 「小川」

○ the Gulf of Mexico 「メキシコ湾」

ℓ. 5 ○ run into ～ 「～に流れ込む」

## 【9】

### 解答

「全訳」下線部参照。

### 全訳

毎年、ロンドンを訪れる多くの外国人は、ベーカー・ストリートに行く。奇妙な謎を解読しながら、部屋でシャーロック・ホームズがバイオリンを弾いている姿を見ようとさえ思っている人が多い。やって来る人たちをがっかりさせないために、1890年代の様式の家具が置かれた部屋は、あたかもシャーロック・ホームズがさっきそこを出たかのように見えるようにしてある。しかし、もちろん本物ではない。

### 解説

○ Many of them even expect to see Sherlock Holmes playing the violin in his room, as he solves one of his strange mysteries.

them が指すのは many foreign visitors to London であり、expect to do は「…するつもりである」の意味。see Sherlock Holmes playing the violin は、「知覚動詞 see + 目的語 + …ing」の形式。as は「時間」を表す接続詞で「…しながら、…するのと同時に」の意味。

○ So as not to disappoint the visitors, a room, furnished in the style of 1890's can be seen, just as Mr. Holmes might have left it.

so as not to do は否定の目的を表す不定詞。furnished in the style of 1890's は直前の a room の説明である。just as Mr. Holmes might have left it の as は「様態」を表し、just によって強調されている。「ちょうど～であるかのように」となる。

## 添削課題

### 解答・解説

- (1) (a) これらの中のいくつか取ってもよい。  
(b) これらの中のどれでも取ってよい。  
〔肯定文における some と any の意味の違いに注意。〕
- (2) (a) その少年は家である鳥を飼っている。〔some + 単数普通名詞「ある～」〕  
(b) その少年は家で何羽か鳥を飼っている。〔some + 複数名詞「いくつかの～」〕  
(c) その少年は家でおよそ 10 羽の鳥を飼っている。〔some + 数詞「およそ～」〕
- (3) (a) フットボールを好む人もいれば、野球を好む人もいる。〔some ～ other …「～するものもあれば…するものもある」〕  
(b) 子供たちの何人かはここにいるが、残りはどこにいるのか。〔some ～ the others …「多くのうちいくつか～残りの全部は…」〕

## 29 章 冠詞

---

### 要点

#### ■ 確認問題 1

##### 解答

- (1) 私たちは数学を週に7時間習う。
- (2) 私たちは皆、ある意味で、技術者にならなくてはいけない。
- (3) ヨシカワさんという方があなたに会いにいらっしゃいました。

#### ■ 確認問題 2

##### 解答

- (1) エリザベス女王はスピーチを行い、その内容は英国国民を勇気づけた。
- (2) 既知のものと未知のものを見分けなさい。
- (3) その父親は、頭をなでて娘を褒めた。

#### ■ 確認問題 3

##### 解答

- (1) An engineer and designer is
- (2) An engineer and a designer are

#### ■ 確認問題 4

##### 解答

- (1) We are going to elect mayor (the が不要)
- (2) takes five minutes by bus (the が不要)

#### ■ 確認問題 5

##### 解答

- (1) Alice has so large a house that (the が不要)
- (2) Alice has such a large house that (the が不要)
- (3) What a beautiful woman Alice is (most が不要)

## 問題

### 【1】

#### 解答・解説

- (1) a, × (彼は菜食主義者だから、彼の家では肉は食べられないですよ。)[vegetarian は可算名詞なので、a を入れる。この場合、a vegetarian は不特定の単数名詞である。meat は不可算名詞なので、不定冠詞は不要。]
- (2) A, ×, × (旅行者に聞けば、ホテルに関する情報をもらえる。)[travel agent は可算名詞なので、a を入れる。information (情報) は不可算名詞なので、不定冠詞は不要。hotels は可算名詞の複数形であるので、不定冠詞は不要。]
- (3) ×, an (スミスさんは誠実な方です。)[後続の内容から、話し手が Mr. Smith を知っていることは明らかなので、a は不要。man は可算名詞。honest [ˈɒnəst] は母音で始まるので、an を入れる。]
- (4) a, a, an, a (1週間100ドル払おう。とてつもなくいい給料ではないが、(それは)まったく君が未熟だからだ。)[1週間あたりの給料であるので、a week とする。この場合の a は「〜につき」の意味である。salary (給料) は可算名詞なので不定冠詞が必要。]
- (5) ×, a (人間は理性のある動物です。)[総称的に「人間、人」を表す場合、man は不可算名詞として用いられる。したがって、不定冠詞は不要。animal は可算名詞であるので、a を入れる。]

### 【2】

#### 解答・解説

- (1) the, the, the (彼女は古い家の最上階に住んでいた。風が吹くと、すべての窓ががたがたと音をたてる。)[top floor は文脈から特定できるので、the を入れる。ただ単に「風」と言う場合、通例 the wind とする。all ( ) windows は、all ( ) windows of the top floor of an old house の意味である。したがって、どこの窓であるか特定できるので、the が入る。]
- (2) the, ×, × (私は校長先生と話をするために学校に行った。キャメロンに体操をやめて代わりにバレエのレッスンをさせるように、校長先生を説得した。)[「学校に行く」は通常 go to school である。しかし、go to school が意味するのは、「勉強をするために学校に行く」である。つまり、school 本来の機能は「勉強をする場所」であり、この目的のために「学校に行く」場合は、go to school となるのである。本問の場合は、to talk to ( ) headteacher から明らかなように、「校長先生と話をするため」に学校に行くのである。そのため、go to school ではなく、go to the school となっている。この学校の headteacher が誰であるか明らかであるので、the headteacher となる。gymnastics は不可算名詞で「(学科としての) 体育、(競技としての) 体操」を意味する。いずれにしても、定冠詞は不要。ballet lessons は特定する必要がないので、これも無冠詞。]
- (3) ×, the, the (私の母は午前中礼拝に行き、午後友達の家を訪ねる。)[ここでの「教会に行く」は「教会に礼拝のために行く」ということである。つまり、教会本来の目的は

「礼拝をする場所」であり、この目的で「教会に行く」のであるから、go to church となる。「1 日の中での時間帯」を表す句で in を伴う場合、定冠詞を用いる。したがって、「午前〔午後〕に」は in the morning [afternoon]。]

- (4) The, ×, the, × (一番下の男の子は学校に通い始めたところで、長男は大学生です。)  
〔( ) youngest boy, ( ) eldest boy はいずれも形容詞の最上級を用いているので、the を入れる。school, college については、(2) の school の解説参照。〕
- (5) ×, ×, the (私の父は日曜日、新聞を読みながら朝 10 時までベッドの中に入っています。)[Sundays は毎週のことであって、特定の日曜日ではないので、定冠詞は不要。bed は (2) の school の解説参照。Sunday papers は、他の曜日の新聞ではなく、「日曜日の新聞」と特定されているので、the を入れる。アメリカの新聞は通例、日曜日は他の曜日より分厚い。]

### 【3】

#### 解答・解説

<固有名詞と冠詞の用法>

- (1) the [川には the をつける。]  
(2) the [山脈には the をつける。]  
(3) × [学校には the をつけない。ただし、地名のついた学校は the University of California のように言う。]  
(4) the [海には the をつける。]  
(5) an [an Edison 「エジソンのような人」の意味を表す場合、単数の場合は不定冠詞をつける。]  
(6) a [a Picasso 「ピカソの絵 [作品]」の意味を表す場合、単数の場合は不定冠詞をつける。]  
(7) × [固有名詞の一般的な用法 (不可算で不定冠詞をつけず、複数形にならない)。]

### 【4】

#### 解答・解説

- (1) ×, an (私は旧友の 1 人と昼食を食べた。)[「食事を表す名詞の冠詞は省略。「旧友の 1 人」という意味にするために「1 つ」を意味する不定冠詞を入れる。]  
(2) the, a (このクラスの男子は皆ほぼ同じ体格である。)  
○ all the boys 「男子全員」[「形容詞 + 冠詞 + 名詞」の語順に注意。]  
○ much of a size 「ほぼ同じ大きさの」[「同じ」という意味を表す不定冠詞。]  
(3) a (私たちは 1 日最低 8 時間労働しなければならない。)  
○ a day 「1 日に」[「～につき」の意味を表す不定冠詞。]  
(4) a, the (遠くから見ると、(その) 2 人はとてもよく似ている。)  
○ from a distance 「遠くから」[「いづれか」の意味を表す不定冠詞。]  
○ the two = (the) two persons

- (5) the (砂糖を回してくれませんか。)[状況から特定の sugar を指しているなので定冠詞をつける。]
- (6) × (この店では砂糖を売っていますか。)[この場合特定の sugar を指すわけでもなく、物質名詞なので無冠詞。]
- (7) the (パリはフランスの首都である。)[capital が of France で限定されているので定冠詞をつける。]
- (8) the (彼は一人息子である。)[in his family の一人息子と限定されているので、定冠詞をつける。]
- (9) The, the (太陽が東から昇り始めた。)[sun も east も「唯一のもの」を表す名詞なので定冠詞をつける。]
- (10) the (あなたは時々不可能なことを私に頼む。)  
○ the impossible [「the + 形容詞」で「抽象的・集合的な名詞」の意味を表す。]
- (11) the (彼女はボーイフレンドの手をとった。)  
○ take ~ by the hand 「~ (=人) の手をとる」[「身体の部分」を表す場合は定冠詞をつける。]
- (12) ×, × (ジョーンズ教授はこの小説をロシア語から翻訳した。)  
○ Professor Jones [称号として人名の前に用いられる場合、冠詞は省略。]  
○ Russian [国語を表す場合、冠詞は省略。]
- (13) ×, × (私の母は朝から晩まで一生懸命働く。)  
○ from morning till night 「朝から晩まで」[2つの名詞が互に関連して対句をなしている場合の冠詞は省略。]
- (14) the (私たちは英語についてもっと勉強しなければならない。)[一般的に国語を表す名詞の冠詞は省略されるが、language がつくると定冠詞をつける (English = *the* English language)。

## 【5】

### 解答・解説

- (1) ボブはジョンソン家の人です。ジョンソン家の人たちは、当地に滞在中です。  
「不定冠詞 + 固有名詞」の用法を問う問題。ここでは、「～家の人」を表す。その他の「不定冠詞 + 固有名詞」の用法は以下の通り。  
There is a Mr. Smith to see you.  
(あなたにお目にかかりたいというスミスさんとかいう方がいらっしゃいます。)  
That boy will be a Matsui in the future.  
(あの少年は将来松井のようになるだろう。)  
I'm going to buy a new Toyota. (トヨタの新車を買う予定なんだ。)  
I have a Picasso. (ピカソの作品を1点持っているよ。)
- (2) 私たちのクラスにはスミスさんという生徒が3人いる。[「～という姓名の人」の意味の時、固有名詞に不定冠詞をつけたり、複数形にしたりする。]

【6】

A.

解答例

- (1) It was first grown in the New World of America.
- (2) They are baked potatoes with their skins on.
- (3) (Roasting is like baking,) Because it is usually done in an oven.
- (4) (Roasting is like frying,) Because fat or oil is used for both roasting and frying.
- (5) ① (Roasting is different from frying,) Because roasting is done in an oven but frying is not.  
② (Roasting is different from frying,) Because one uses an oven for roasting but one does not for frying.
- (6) It is used for potato crisps.
- (7) (We must be careful what we mean when we talk about chips,) Because fried potatoes are called chips in Britain while potato crisps are called chips in America and now also in Britain.
- (8) It is a mixture of flour and water.
- (9) One takes them home wrapped in newspaper while they are still hot.
- (10) ① (Some housewives are glad that there are fish and chip shops,) Because they are very useful when housewives are too busy or too tired or too fond of television or just too plain lazy to cook supper themselves.  
② (Some housewives are glad that there are fish and chip shops,) Because they are very useful when housewives cannot cook.

解説

- (1) 本文ℓ. 2～3 参照。the potato first came from the New World of America ということは最初に育てられていたのはそこだと判断できる。
- (2) 本文ℓ. 12～13 参照。jacket potato という言い方もある。
- (3) 本文ℓ. 14 参照。
- (4) 本文ℓ. 22 参照。
- (5) 本文ℓ. 22 参照。
- (6) 本文ℓ. 29～30参照。fried potatoes = chips (in Britain) = french fries (in America) である。
- (7) 本文ℓ. 28～30 参照。このパラグラフはややこしいが、fried potatoes (日本で言うフライドポテト) と potato crisps (日本で言うポテトチップス) が、英国とアメリカでは何と呼ばれているかを把握すればよい。
- (8) 本文ℓ. 34～35 と注参照。
- (9) 本文ℓ. 37～38 参照。本文では they (fish and chips) が主語の受身の文になっているが、質問文に合うように主語を one に書き換えればよい。
- (10) ①のように本文ℓ. 38～40 の内容をそのまま書いてもよいし、②のように短くまとめて解答してもよい。

B.

**解答**

- (1) (b)    (2) (a)    (3) (c)    (4) (d)    (5) (b)  
(6) (a)    (7) (d)    (8) (d)    (9) (b)    (10) (a)

**解説**

- (1) especially も類語。(d) rarely は「めったに…ない」。  
(2) introduce something (in [into] something) は bring something into use or operation for the first time という説明が当てはまる。  
(3) diet の第1義は、減量のための特別な食事療法ではなく「日常の飲食物」である。  
(4) get on without は、manage without と同意。「～なしでやっていく」。  
(5) peel ～は1語で「～の皮をむく」という意味なので「ジャガイモの皮をむく」は peel the skins of potatoes ではなく、peel potatoes という。  
(6) (b) hen の肉は chicken, (c) pig の肉は pork, (d) sheep の肉は mutton や lamb と言う。  
(7) grease ～は「～に油を塗る」。greasy *adj.* は「べとべとした、(料理などが) 脂っこい」。  
(8) (a) burns 「焼ける」、(b) boils 「ゆだる、煮える」  
(9) slice はある塊から切り取った薄く平らなものを指す。piece は、何かの一部分を指す、より一般的な語。  
(10) (c) well-cooked 「上手に料理された」

C.

**解答**

- (1) (b)    (2) (c)    (3) (a)    (4) (b)    (5) (d)

**解説**

- (1) 本文ℓ. 4 に at the end of the sixteenth century とある。  
(2) 通常ゆでるのに使うのは水と鍋。トレイ、オーブン、油などは使わない。  
(3) 本文の第4パラグラフ全体が baked potatoes に関する説明になっている。fat の有無についてはℓ. 14～16 参照。  
(4) 本文の第5パラグラフ全体が roast potatoes に関する説明になっている。  
(5) frying という調理法については、本文の第6パラグラフで説明されている。通常揚げものには鍋と油脂を使う。

**全訳**

世界中の多くの地域、とりわけ北ヨーロッパと北アメリカでは、人々はジャガイモをたくさん食べる。ヨーロッパ、アフリカ、アジアの旧世界の多くの主要な食べ物と同様、ジャガイモは最初、新世界アメリカからきた。ジャガイモが英国に入ってきたのは、エリザベス1世時代、16世紀末である。今日ではジャガイモは英国人の食事の非常に重要な部分を成しているので、かつてそれなしで人がどうやってしのいでいたのかを想像するのが困難なほどだ。

ジャガイモは多くの様々なやり方で調理できる。英国で用いられている4つの主な調理法は、ゆでる (boiling), 直火に当てずにオーブンで焼く (baking), 直火で焼く (roasting), 揚げる (frying) である。

ジャガイモをゆでるときは、細かく切ってソースパンに入れ、沸騰した湯と塩少々で調理する。調理には普通 20 分から 30 分かかる。

ジャガイモはまた bake される。ジャガイモを bake する場合は、約 30 分オーブンに入れておく。普通は皮をむかない。皮つきのベイクドポテトはジャケットを着たポテトと呼ばれる。ベイクドポテトは切れ目を入れたところにバターをのせて出されることが多い。

roasting は baking に似ている。普通オーブンを使うからである。baking と roasting の主な違いは、baking には油を使わないが、roasting では油を使うという点である。日曜日の昼食には決まってローストポテトを添えたローストビーフを食べるという英国人は多い。油を敷いたトレイに肉とジャガイモ（普通は皮をむいた）をのせ、オーブンに入れる。肉の脂が溶け、トレイに流れ落ちる。調理人は時々オーブンからトレイを出し、トレイの底に溶け出た脂をスプーンですくって肉とジャガイモの上にかける。こうすると、ジャガイモの外側がカリカリになり、茶色になるのである。

脂か油を使うので、揚げる (frying) のは roasting に似ているが、オーブンは使わない。ジャガイモを揚げるには主に 2 つのやり方がある。薄切りにしてフライパンという特別な浅い鍋で揚げることもできる。この料理には、英国人は普通、袋や缶入りで売られている動物性もしくは植物性の固形の油脂を使う。これは白色で少しバターに似た見た目である。もうひとつのやり方は、deep frying と呼ばれる。薄切りのジャガイモを、油がたっぷりの深鍋か金属のボールに入れる。水の代わりに油を使う点を除いて、これはゆでるのに近い。

英国ではフライドポテトは chips と言われる。chips という言葉の意味について混乱しないように気をつけなければならない。アメリカでは、フライドポテトはだいたい French fries と呼ばれ、chips という言葉は、アメリカやそして今では英国でも、potato crisps を指すのに使われる。potato crisps は非常に薄く切ったジャガイモを特別な工場の手法で揚げ (deep fried)、小型のビニール袋に入れて売られているものである。他の言語にも取り入れられていったのは、chips という言葉のこの、第 2 の新しい方の意味である。

英国で最も人気のある料理の 1 つは、fish and chips である。魚は揚げる前に batter と呼ばれる粉と水を混ぜたものに浸けられる。(batter と butter を混同しないように。) 魚も chips も両方、油で揚げられる (deep fried)。英国ではどの町にも fish and chips の店があって、入って家族全員の分の fish and chips が買える。新聞紙に包んでまだ温かいうちに家に持ち帰られる。fish and chips の店は、主婦が忙しすぎたり、疲れすぎていたり、あまりにもテレビが好きだったり、あるいはただ単に怠惰すぎたりして、夕食を自分で作れない時にとても便利である。

#### 注

- ℓ. 2 ○ the Old World 「旧世界 (東半球, 特にヨーロッパ)」
- ℓ. 3 ○ the New World 「新世界 (西半球, 特に南北アメリカ大陸)」
- ℓ. 4 ○ in the time of ~ 「～の時代に」 cf. in this time and age (こういうご時世に)
- ℓ. 7 ○ cook ~ 「～を料理する, ～を火にかける」
- ℓ. 8 ○ boil 「ゆでる, 沸騰する [させる]」
  - bake ~ 「～ (パンなど) を (オーブンで) 焼く」
  - roast ~ 「～ (肉など) を (オーブンで) 焼く」

- fry ～「～を油で揚げる，～を炒める」 cf. pan-fry (フライパンで炒める)
- ℓ. 9 ○ cut up ～「～を細かく切る」
  - saucepan 「ソースパン」 長柄フタつきの深い鍋。
- ℓ. 14 ○ the difference (between A and B) is that … はよくあるパターン表現。
- ℓ. 15 ○ fat *n.* 「脂肪，料理用の脂」
- ℓ. 18 ○ run down 「流れ落ちる，(機械などが) 止まる」
 

Ex. The old man stood up with tears *running down* his face.  
(老人は涙を流しながら立ち上がった。)

  - from time to time = occasionally, now and then
- ℓ. 20 ○ crisp *adj.* 「パリパリする，カリカリする」, *n.* 「ポテトチップス」
- ℓ. 23 ○ cut ～ into slices 「～を薄切りする」 cf. cut ～ into dices (～をさいの目に切る)
- ℓ. 25 ○ tin 「スズ，ブリキ，缶詰」
- ℓ. 26 ○ deep frying 「揚げること」 fry は炒めることも意味するので，日本語の「揚げる」のイメージにより近い語は deep fry。
- ℓ. 28 ○ chips : 英国では拍子木切りのフライドポテト，アメリカではポテトチップスを指すことが多い。
  - get confused 「混乱する」 < confuse ～ 「～を混乱させる」
- ℓ. 34 ○ dish 「料理，食べ物，皿」
- ℓ. 35 ○ batter 「料理のたね」天ぷらの衣のようにどろどろしたものを指す。パンやクッキーの生地は dough と言う。

## 【7】

### 解答

- (1) (a) a (b) The (c) the
- (2) 「全訳」下線部(1)参照。
- (3) 「全訳」下線部(2)参照。

### 解説

- (1)
  - (a) woodcutter は初めて話題にのぼるので，不定冠詞を用いる。
  - (b)(c) 前文の his two children を指すのが，( ) boy と ( ) girl である。よって特定できるので，いずれも the を用いる。
- (2) まず，They が指すのは，a woodcutter, his wife, and his two children である。つまり「きこりの家族」のこと。
  - little 「〔否定的に〕少ししかないもの」
  - to live on : 形容詞用法の不定詞。
  - live on ～ 「～を常食とする，～を常食として生きていく」
- (3)
  - when : 関係副詞で，先行詞は one time。
  - famine 「飢饉，食糧不足」
  - no longer 「もはや…ない」

○ provide ～ (= 人) with … (～物) = provide … for ～ 「～に…を供給する」

**全訳**

大きな森の近くに、あるきこりが妻と２人の子供と一緒に住んでいました。男の子の名前はヘンゼルといい、女の子の名前はグレーテルと言いました。(1) その家族はいつもとても貧しくて、食べるものがほとんどありませんでした。(2) そしてある時、その土地で飢饉が起こり、そのきこりはもはや家族を養うのに十分な食糧を手に入れることができなかったのです。

## 添削課題

### 解答・解説

- (1) A friend of mine and I go to school on weekdays and go to church on Sundays. [「友人の1人」という意味にするために「1つ」を表す不定冠詞を入れる。school 本来の習慣的機能は「勉強をする場所」であり、この目的のために「学校に行く」場合は、go to school となる。同様に、礼拝や説教を受けに「教会に行く」場合は church に冠詞をつける必要はない。]
- (2) My mother went to *the* church to join *a* charity bazaar about *an* hour ago. [(1) と対照的に、この場合は本来の習慣的な目的以外のために「教会に行く」ため、go to the church とする。charity bazaar はこの時点で特定されていないので、不定冠詞 a を入れる。「1時間」とするためには「1つ」を表す不定冠詞を入れる。]
- (3) Early in *the* morning I had *a* visit from *an* intimate friend. [ただ単に「朝、午前中」という場合は、in the morning。visit は可算名詞。have a visit で「訪問を受ける」の意味になる。「親友」は誰であるか特定していないので、an intimate friend とする。]
- (4) According to that report, *the* newest Hayabusa runs between Tokyo and Shin-Aomori at *the* speed of 320 kilometers *an* hour. [形容詞の最上級で限定されているため、newest Hayabusa の前には定冠詞 the が必要。speed の前も同様に、of 以下で限定されているため、the を入れる。「時速～km」という場合の～kilometers an hour で使われている an は、「～につき」の意味を表す。]









|      |  |     |  |
|------|--|-----|--|
| 会員番号 |  | 氏 名 |  |
|------|--|-----|--|